



実写映像がCGにまさる列車運転ソフト

金沢工業大学 講師 江見 圭司

実写映像はコンピュータグラフィックス（CG）よりも何よりもまさるのは言うまでもない。視聴覚教材としてビデオは有用である。しかしコンピュータで簡単にCGが制作できるようになった現在では、CGは実写映像と並んで重要な表現形態となっている。

CGは3次元表現になれば、カメラ位置をコンピュータの中で自由に変更することができるので、いろいろな角度からの映像を簡単に作ることができる特性をもつ。この特性を生かして3次元CGによるカーナビシステムも存在する。実写ではこのようなことは不可能である。

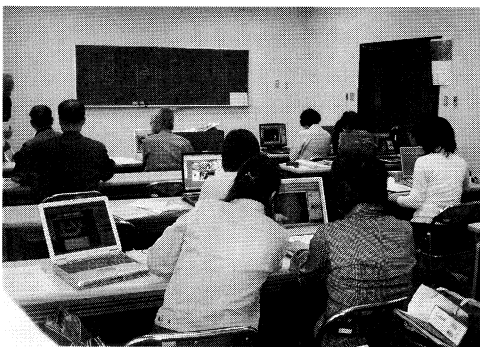
一方、列車運転ゲームではCGと実写の2種類がある。決められたレールの上しか走れない列車の場合はカメラ位置を変更する必要もないので実写の方が良いはずである。ところが、これまで実写のゲームはCGによるゲームよりもコストが高く付くのでなかなか普及してこなかった。CGの映像は雨や霧など天候の変化、昼夜のちがいを比較的容易に体験できるような映像を作り出すことができる。しかし実写でもCGを合成し、雨や霧など天候の変化も体験できるようにすることも今の時代では可能である。実写の方が路線のこまかな風景や線路状況（カーブやポイントなど）を正確に体験できるのである。

列車の運転は、ピタリと停止位置に止める職人芸の世界である。そんな人たちの訓練を支援できるソフトがゲームソフトから発展した形で可能になったのである。実写映像とCGとコンピュータソフトウェアの組合せは無限の可能性がある。今後の発展を期待する。

映像メディア活用講習会

デジタルカメラ教室開催!

(能美市)



根上勤労青少年ホーム 中村 泰加

近年多く普及しているデジタルカメラですが、様々な機能があるにもかかわらず説明書だけでは「判りづらい」との声があり、今回『デジカメを楽しむ』講座を開催しました。

講師には小松市在住の北川順士氏をお願いし、市情報紙にて募集したところ定員の15名をすぐに上回る申し込みがあり関心の高さを感じました。

デジタルカメラの機能をはじめ、構図の取り方を勉強し、隣接する能美市フラワーセンターで撮影した花の写真展を施設内ギャラリーにて開催、また様々な画像処理をした年賀状の作品を市文化祭に展示しました。

参加者には作品制作を通してデジタルカメラならではの良さを認識していただけたかと思います。

デジタル時代到来 ～地上デジタル放送の目的と可能性～

NHK金沢放送局 営業部 視聴者技術

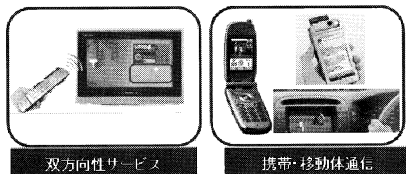
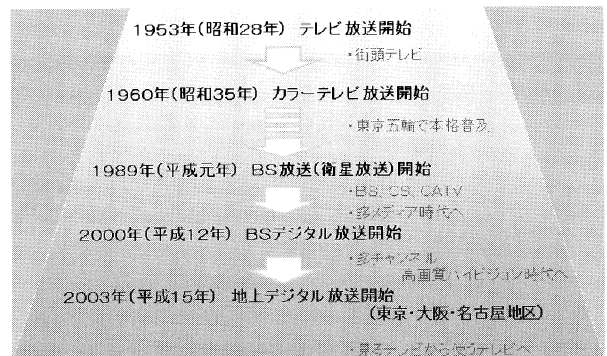
カラー化以来の大変革

日本でテレビ放送が開始されたのは1953年（昭和28年）のこと。その後、1960年（昭和35年）にカラー化し、現在に至っています。それから40数年にわたり大きな変化のなかった地上波放送が、デジタル化により大きく変化します。

デジタル化の目的

地上波テレビ放送のデジタル化は、国策として進められており、大きく分けて次の目的があります。

- ①高画質のハイビジョンや、いつでも天気予報やニュースなどを確認できるデータ放送など、放送サービスの高度化。
- ②デジタル技術によりテレビ放送が使用する電波の帯域を減らし、普及著しい携帯電話などの他用途に振り替える、電波の有効利用。
- ③インターネット環境の普及が進まない地域や、パソコンの扱いが苦手な人でもITを利用できる、家庭におけるIT化の進展（デジタルデバイドの解消）
- ④テレビの買い替えや、放送局の設備入れ換えに伴う、電子産業の振興。



デジタル放送の可能性

地上デジタル放送では妨害に強い方式を採用しているため、画面が二重三重になってしまうゴースト障害やダクト混信のようなビット障害のない安定した受信が可能になります。これにより、ご家庭で綺麗な映像を楽しんでいただけるだけでなく、車内や携帯電話でもテレビをお楽しみいただけるようになります。

さらに、番組表をテレビ画面で確認し、録画予約もできるEPG（電子番組ガイド）や、電話線やインターネット回線を利用した番組への参加など、アナログ放送にはなかった楽しみ方が加わります。

デジタル放送井戸端会議

NHKでは放送による周知のほかに、「デジタル放送でテレビがどう変わるの？」という皆さんの素朴な疑問にわかりやすくお答えする「デジタル放送井戸端会議」を実施しています。これは、町内会や婦人会など集会の場所にNHK職員がお伺いし、デジタル放送について説明させていただくというものです。職員の派遣は無料です。詳しくはNHK金沢放送局視聴者技術（電話：076-264-7015）までお問い合わせください。

第9回視聴覚教育総合全国大会・東京大会に参加して

県立生涯学習センター 学習情報課長 下川 秀一

本大会は、昨年8月27日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、『ネットワーク社会における、新たな視聴覚教育の展開をすすめよう - メディアを生かした学びとヒューマンコミュニケーション-』を大会主題に開催されました。

シンポジウム「教育ネットワーク活用の現状と未来」では、独立行政法人メディア教育開発センター名誉教授で教育情報化推進協議会会長の坂元 昂先生をコーディネーターに行われました。

教材配信や地域情報化貢献の先進事例により、行政、企業、学校、地域が協力することで、コンテンツ作成者やコーディネーター、サポーターなどの支援体制が整い、また同時にそのことが、新たな生涯学習需要を生み出すことがわかりました。

団体別分科会「全国視聴覚教育連盟」では、「情報通信ネットワークの活用と新たな視聴覚メディアサービスの展開」について発表がなされました。

ブロードバンド通信環境下ではeラーニングをはじめ、デジタルコンテンツの作成が進み、地域映像のデジタル化によるアナログ映像の保存・データベース化・ネットワーク配信が焦点の問題となりつつあり、各施設の模索が続いていました。

そうした中で、ネットを介した利用者 と提供者でなく、相互参加型の学習がインターネットにより可能になるのではとの指摘には、今後のネットワーク活用学習を考える上で、コミュニケーションの重要性を再認識させられました。

平成17年度石川県視聴覚教育協議会・総会報告

平成17年6月8日(水)、石川県立生涯学習センターにおいて、平成17年度理事会及び総会が行われました。
(出席市町13、委任状提出市町9)

総会では、議長に小松市立図書館長 阿戸壯一郎氏を選出し、議案審議を行いました。

* 議案審議結果

合併に伴う市町村の減により、役員の数等について、会則の改正を行いました。

また、平成16年度事業・決算報告並びに17年度事業・予算について可決承認されました。

なお、総会終了後、記念講演として『映像メディアとインターネット』と題し、金沢工業大学講師 江見圭司氏により、最新の映像を映し、メディアやインターネットについて御講演いただきました。

平成17年度 役員 一覧

会 長	新村 健了	生涯学習センター館長	理 事	瀧野 勝利	県教委・生涯学習課
副会長	遠田 敏博	かほく市教育長	監 事	寺田 孝	金沢市
参 与	谷内 厚子	県教委・生涯学習課長	〃	勝田 秀一	羽咋市
理 事	澤田 憲司	白山市			
〃	本多美千代	能美市	事 務 局 長	下川 秀一	生学セ・学習情報課長
〃	出島 忍	内灘町	事 務 局 員	本多 大和	生学セ・学習情報課
〃	土屋 幸司	中能登町	局	〃	三木 則子

平成17年度 事業報告

1 情報技術活用研修会

市町名	研 修 会 名	開 催 日	場 所	参加人数
内 灘 町	初心者パソコン講習会	平成17年12月12日～平成18年1月16日	内灘町役場	30人
宝達志水町	「パソコン教室」年賀状を作ってみよう!	平成17年11月29日～12月2日	宝達志水町立押水公民館	46人
能 登 町	初級パソコン講座 (ワード)	平成17年11月21日・25日・28日・12月2日	能登町立松波中学校	10人

2 映像メディア活用講習会

市町名	研 修 会 名	開 催 日	場 所	参加人数
能 美 市	デジカメを楽しむ	平成17年10月8日～11月26日	能美市根上勤労青少年ホーム	19人

3 視聴覚教育指導者講習会「現代的課題対応講座」

(第1回) 「パワーポイントを使ってのプレゼンテーション」 (パワーポイント入門)

平成17年6月22日(水)・23日(木) 34名参加 場所: 石川県立生涯学習センター

(第2回) 演題: 『デジタル合成と映像』 (いしかわビデオ作品コンクール発表会記念講演)

平成18年3月10日(金) 場所: 石川県立生涯学習センター

講師: 金沢工業大学講師 江見圭司先生

平成17年度 (第36回) いしかわビデオ作品コンクール

●応募作は、力作揃いの33作品!! ●

昨年度「いしかわビデオ作品コンクール」と名称・内容を改め、企画を一新してスタートしましたが、今年度は、応募期間平成17年12月1日(木)～平成18年2月10日(金)とし、昨年同様①学校教育・社会教育部門、②生徒・学生・一般部門の2部門で募集しました。

なお、コンクールは石川県教育委員会の共催とし、また、石川県小・中学校視聴覚教育研究協議会、石川県高等学校視聴覚教育研究会、石川県社会教育協会、石川県公民館連合会の後援を得て行いました。

応募は、①学校教育・社会教育部門9点、②生徒・学生・一般部門24点の計33作品で昨年を上回る応募がありました。なお、審査は2月23日(木)県立生涯学習センターで行いました。

審査委員

審査委員長	江見 圭司	金沢工業大学講師	委 員	瀧野 勝利	県教委・生涯学習課
委 員	勝田 敏夫	メディアアドバイザー	委 員	新村 健了	県立生涯学習センター館長

審査結果

①学校教育・社会教育部門		
最優秀賞	あなたの心の声を聞かせて	(小松市)小松市立芦城中学校
優秀賞	地域と地域を結ぶ新上菊橋	(金沢市)城南公民館
〃	少年少女自然冒険隊	(白山市)白山市立朝陽小学校びておチーム3年
奨励賞	堂形のシイノキ	(金沢市)東田啓子・宮川恭子
努力賞	学校生活・入学当初	(小松市)山岸 智恵美
〃	加賀百万石 金沢城と石垣	(金沢市)木下忠司・中川勝巳・坂本勝之
〃	古都に調和する21世紀美術館	(金沢市)森 住江・山岸智恵美・池田総里

②生徒・学生・一般部門		
最優秀賞	砂に魅せられて	(金沢市)早川 敏次
優秀賞	中世たたら製鉄の再現	(金沢市)森本 重雄
〃	富士の表情	(金沢市)谷屋 甚三
奨励賞	蜂巢(蓮)	(金沢市)小倉 健治
〃	白い恋人たち	(小松市)小松市立芦城中学校1年4組
〃	細波の幻想	(金沢市)的場 孝芳
努力賞	流域の生業	(金沢市)前田 信一
〃	夏だ祭りだ、これが祭りだ	(七尾市)酒元 昭二
〃	おわら風の盆	(かほく市)北川 嘉一
〃	北陸の義経 WEBページCMビデオ	(金沢市)医王義護学校高等部映像表現班
〃	桐の木話	(金沢市)小林 陽治
〃	花 映画制作記録編	(宝達志水町)後藤 正
審査員特別賞	Our town, Shika ~外国の人に志賀町と高浜中を知ってもらおう~	(志賀町)志賀町立高浜中学校 柴田・広田・浜田組

審査講評

審査項目は、企画構成、撮影技術、編集技術、録音技術、社会性・教材性(①部門)、美術性・表現性(②部門)の5点で審査を行いました。

どの作品も、ユニークな視点から作品作りが行われており、力作揃いで甲乙つけがたい作品ばかりでした。いろんなジャンルに渡り、かなり高度なテクニックを使い、プロにも引けを取らないものもあり、今後が更に楽しみになりました。

(審査委員長 江見 圭司)

石川県視聴覚教育協議会ウェブサイト「視聴覚いしかわ」開設のお知らせ…

ただ今、石川県視聴覚教育協議会のウェブサイト(ホームページ)を4月オープン目指して鋭意制作中です。当協議会の事業計画、事業報告等や県内市町の視聴覚ライブラリー関連施設・事業情報、視聴覚関連リンク集等をご覧いただけるよう準備を進めております。

内容は、皆様のご意見を元に順次充実させていく予定ですので、ご意見・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

県立生涯学習センターTOPページにリンクを張りますので、そちらからご利用できます。お楽しみに。

○生涯学習センターURL (<http://www.pref.ishikawa.jp/shakyo-c/>)



夢・回マン 「視」の効果(全校朝礼で子どもに語る)



石川県小中学校視聴覚教育協議会会長
金沢市立夕日寺小学校長 内田 正明

2年前、小規模校の校長になって、毎月の全校朝礼に何を語るか悩みました。短時間だが、できるものなら子ども達の心に残る話をしたい。そこで決めた方針が、①自分の体験したことや価値観を語る。②視覚に訴える「物」を使って印象に残るようにする、でした。自分のした話から二つ紹介します。

(その1)メッセージ「自然のなかで遊ぼう」、用意した物「細い竹、笹、のこぎり、トイレットペーパー、水」、作った物「竹鉄砲」

子ども達の見ている前で、竹の一節を切り取る。それを押し棒にする部分と筒の部分に切り分ける。押し棒にする部分に笹の棒を差し、それを筒に通して筒先より1cmほど短く切って、出来上がり。時間にして、約3分ほど。用意したトイレットペーパーをぬらして、筒に詰め、押し棒を勢よく押しすと、パーンという音と共に玉が飛び出した。子ども達の歓声が心地よかった。子どもの頃、竹鉄砲をよく作って遊びました。玉は「じゃのひげの実」を使ったので、秋の遊びでした。その後一週間ほどは、昼休みは子ども達との竹鉄砲作りになりました。

(その2)メッセージ「夢を持とう」、用意した物「お茶入りポット、湯飲み、拡大人物写真、絵本(やまとゆきはら)」、取り上げた人物「白瀬轟(のぶ)」

子どもの前で、ポットから湯飲みにお茶を入れ、おいしそうに飲む。「冬は温かい飲み物に限るね。」とか言いながら、「自分の夢を実現するために、子どもの時から冬でも一切温かいものを口に入れなかった人がいます。」と言って、白瀬轟の写真を見せる。その後絵本で南極探検の様子を紹介した。やや、こじつけの感のあるお茶飲み演技だが、関心を持たせるには十分だった。

これまで視聴覚教育に関わってきて、「視」「聴」へのこだわりが全校朝礼での「物利用」という形で生かされることになりました。「視」は随分効果的です。

編集後記

日ごと春めく、「視聴覚いしかわ」第2号を発刊いたしました。ご執筆いただきました江見先生、内田先生をはじめ、NHK金沢放送局様、能美市中村様には深く感謝いたします。

急激なITテクノロジーの進歩は、さまざまな情報手段による画像や映像等の教材を活用してより高い教育効果が期待されるようになりました。石川県視聴覚教育協議会もIT時代の視聴覚教育の進展に貢献していきたいと思っております。皆様のご支援をお願いします。(学習情報課長 下川 記)